

よろい

甲を着た古墳人だより



公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

かないしもしんでん

金井下新田遺跡

鉄器生産の遺構を発見 —金井東裏遺跡と関連か!!—

甲を着た古墳人が発見された場所から400mほど南に位置する金井下新田遺跡の調査で、5世紀後半の鉄器を生産した鍛冶遺構が発見されました。金井下新田遺跡は、上信自動車道関連で平成26年4月から調査を開始した遺跡です。

鍛冶遺構は、一辺が10mほどの大型の竪穴住居で、中央部の床面に鍛冶炉や鞆の羽口などが発見されていることから、ここで鉄器生産を行っていたことがわかりました。この竪穴住居が完全に埋まった上を6世紀初頭のHr-FAが覆っていることから、5世紀後半に鉄器生産を行っていたものと考えています。

5世紀後半の鍛冶遺構は、県内では富岡市の上丹生屋敷山遺跡や甘楽郡甘楽町の下小塚遺跡など数か所で確認されているだけです。今回発見された鍛冶遺構は県内でも古い時期の鍛冶遺構の一つで、金井東裏遺跡で出土している鉄器とほぼ同じ時期といえます。他にも同じ時期の鍛冶遺構と考えられる竪穴住居もあり、集団で鉄器生産をしていた可能性も高まってきました。豊富な鉄器が出土した金井東裏遺跡の祭祀遺構や、鍛冶とのつながりが想定される2号墳の被葬者との関連も注目されます。



(国土地理院 1/200,000 「宇都宮」「長野」使用)



鍛冶作業の場所

■ 金井東裏遺跡と金井下新田遺跡

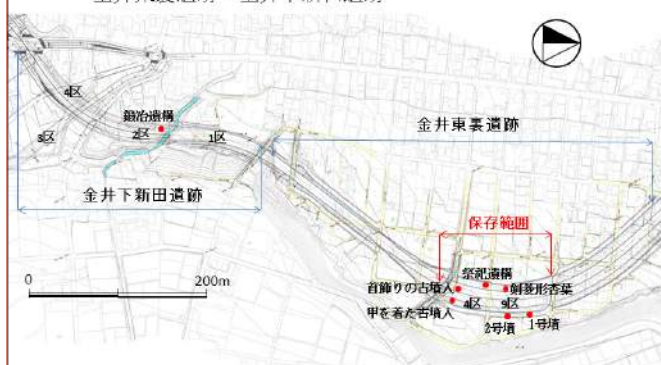
かないしもしんでん

金井下新田遺跡は、金井東裏遺跡と浅い谷を隔てて南北に隣り合っています。二つの遺跡は同じ時期に形成された遺跡であり、「金井遺跡群」として金井東裏遺跡と一連の遺跡として見ていく必要があります。

今後も周辺の遺跡に注目していきましょう。

金井遺跡群

金井東裏遺跡・金井下新田遺跡



■ 砥石も残されていた

といし

住居の中央には、鍛冶炉を中心に扁平な川原石がいくつか出土しましたが、その一つは表面が滑らかに擦れていたことから、鉄器を研いだ砥石であることがわかりました。また、近くには炭を溜めたと考えられる場所も発見されています。



■ 鍛造剥片も多量に出土

たんぞう

住居中央の床面に発見された鍛冶炉は、長径が 30 cm ほどの楕円形で、内部は高熱によって焼土化していました。また、炉の東側からは釜（送風装置）の先端部に使われた羽口（送風口）と、鉄器を鍛造したときに出る鍛造剥片が多量に残されていました。

※「鍛造」＝加熱して槌で叩いて板状に薄くのばして仕上げの金属の加工法



■ 金属探知機も使用

鍛冶遺構の調査では、愛媛大学東アジア古代鉄研究センターの村上恭通教授の指導により、最新の金属探知機を使い鍛造剥片や鉄滓（鉄製品をつくった時のかす）の検出を行い、鍛冶作業の範囲を絞り込んでいきました。

